

平成 26 年度教育に関する総合調査 調査結果の読み取りに当たって

本市では、学びの高まりを目指す「岡山型一貫教育」と学びの広がりを目指す「地域協働学校」を縦糸と横糸とに見立て、それぞれのつながりや両者の緊密な連携の中で自立する子どもを育てていく教育を推進しています。

そこで、今回の総合調査の結果についても、児童生徒については、小学校 1 年生から中学校 3 年生までの変化を、また、保護者、教職員については、幼稚園から中学校までの変化を見えています。さらには、児童生徒、保護者、教職員の関連した項目間の相関に着目してグラフを読み取ることとしました。

<児童生徒>

小学校、中学校の児童生徒の結果を比べると、肯定的な回答の割合は中学校の方が低くなっています。また、学年別に見ると、多くの項目では中学校 2 年生で最も低くなり、3 年生で回復するという傾向が見られます。

本市では、中学校区内の他校園との連携を図り、小学校と中学校のつながりを大切にしたい取組を行っています。しかし、質問 4「学校の授業はわかりやすく楽しい」や質問 6「家の手伝いを進んでしている」、質問 8「テレビを見たり、ゲームやメールをしたりするのが、長時間にならないように気をつけている」などで、肯定的な回答の割合について、小学校と中学校との間に差が見られます。

地域協働学校の取組で多くの中学校区であいさつ運動に力を入れています。質問 10「地域の人に進んであいさつをしている」では、肯定的な回答の割合が、小学校で 85.4%、中学校で 78.2%となっています。

地域の環境について学び、地域に暮らす人との関わりを積み重ねる中で、地域を愛する心の育成を図っています。質問 14、15 に見られるように、「地域や岡山市の自然や歴史に対する興味や関心」での肯定的な回答は、自然（小学校 56.5%、中学校 42.0%）、歴史（小学校 51.5%、中学校 38.3%）となっています。

※肯定的な回答・・・「①あてはまる」と「②どちらかというにあてはまる」を合わせた回答

<保護者>

幼稚園、小学校、中学校の保護者の結果を比べると、肯定的な回答の割合は幼稚園の保護者が高く、小学校、中学校と順に低くなっていく傾向があります。

学校園では、人材を活用したり体験活動を充実させたりする教育活動を行っています。質問2「人材活用の推進」と質問3「体験活動の充実」の項目では、肯定的な回答の割合において幼稚園では90%以上の保護者が、それらにより子どもの総合的な学力が伸びていると感じています。小学校では約60%、中学校では約50%が肯定的な回答でした。

全国学力・学習状況調査の質問紙調査から、本市は家庭学習に関する課題があることがわかっています。保護者の質問6「あなたは、計画的に勉強するよう子どもにうながしている」では、肯定的な回答の割合が小中とも、約75%なのに対して、児童生徒の質問13「私は、自分で計画を立てて勉強している」では、肯定的な回答の割合が、小学校53.8%、中学校49.4%となっており、保護者と児童生徒との間に差が見られます。

各学校では、スクールランチセミナーなどを実施し、食育を推進することで、食習慣の充実を図っています。保護者の質問10「子どもの食生活に気をつけている」や、児童生徒の質問9「好き嫌いなく食べている」では、肯定的な回答の割合が、保護者が85.2%、児童生徒が小学校76.9%、中学校75.1%となっています。

家庭の教育力向上に向け、地域協働学校などで様々な取組を行っています。質問12「家族で地域行事に参加している」や質問14「地域の子どもたちに積極的に声かけをしている」では、幼稚園・小学校の保護者は約60%、中学校の保護者は約50%が肯定的な回答でした。

※肯定的な回答・・・「①あてはまる」と「②どちらかというにあてはまる」を合わせた回答

<教職員>

幼稚園、小学校、中学校の教職員の結果を比べると、肯定的な回答の割合は幼稚園の教職員が高く、小学校、中学校と順に低くなっていく傾向があります。

教職員の質問 2 と保護者の質問 7 の「思いやりの心が育ってきているか」という項目を比べると、肯定的な回答の割合は、幼稚園では教職員が 97.3% に対して保護者が 94.6% とほとんど差は見られません。しかし、小学校では教職員が 75.0% に対して保護者が 86.4%、中学校では教職員が 63.2% に対して保護者が 83.5% となっており、いずれも差が見られます。

教職員の質問 3 や、保護者の質問 8 の「郷土を愛する心が育ってきていると感じるか」という項目を見ると、肯定的な回答の割合は、教職員が 72.2% で保護者が 62.8% となっています。これに対して、児童生徒の質問 14、15 の「地域や岡山市の自然や歴史に対する興味や関心」の項目の肯定的な回答の割合は、自然（小学校 56.5%、中学校 42.0%）、歴史（小学校 51.5%、中学校 38.3%）となっており、教職員・保護者と児童生徒との間に差が見られます。

学校生活の基盤となる集団づくりは、どの校種においても大切なことです。質問 6「すべての子どもたちが安心して学びに集中できるような学級集団づくりを行っている」において、幼稚園では 97.5%、小学校では 91.4%、中学校では 83.5% の肯定的な回答が見られます。

質問 9 と 10 は「岡山型一貫教育」と「地域協働学校」に関する質問項目で、本市の教育はこれらを 2 つの柱として重点的に取り組んでいます。教職員全体では、質問 9 に 83.6%、質問 10 に 85.9% の肯定的な回答が見られます。

※肯定的な回答・・・「①あてはまる」と「②どちらかというにあてはまる」を合わせた回答